

土浦の弥生時代遺跡



原田遺跡出土の地元の弥生土器
(写真提供：上高津貝塚ふるさと歴史の広場)



土浦市立博物館長
茨城大学名誉教授

茂木雅博

あけまして、おめでとうございます。恒例となりました市立博物館の館長講座もお陰さまで23回が終了し、昨年度からは市民の皆様のご要望に答えて年2回の日帰りバスツアーを開催いたしました。

大変好評で2回とも老若男女で満席の盛況でした。市民の皆様との知的好奇心を満足させることが市立博物館に与えられた使命として、職員一同努力しておりますのでどうぞ気軽にご利用いただきたいと思っております。それから皆様にお願ひがあります。民俗資料や文化財などの処分の際にはぜひ一度博物館にご連絡ください。市内の貴重な文化財を後世に伝えるために学芸員が調査に参ります。民具や文化財は一度破壊すると二度と作るこ

とは出来ませんので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて今回は、市内の弥生時代遺跡について話題にしたいと思ひます。土浦市史には茨城県の弥生時代遺跡は縄文時代の遺跡に対して極めて少なく、不明な点が多いとあります。ちなみに市内の弥生時代の遺跡は、わずかに永国地区、烏山地区、大岩田地区の3地区を紹介しているにすぎません。土浦市はその昭和55年度から57年度にかけて、市内全域で考古学上の遺跡の悉皆調査を実施しました。私はその頃茨城大学に奉職しており、教育委員会の要請で学生の協力を得て徹底的に市内を踏査して305遺跡を登録しました。特に集落遺跡と想定される包蔵地は縄

文時代遺跡167、弥生時代15、古墳時代188などに整理されました。合計が合わないのは重複遺跡が存在するからです。それにしても弥生時代の遺跡が極端に少ないことには変わりありません。どうしてこのような結果があらわれたのか、十分検討することが重要なことと思ひます。日本では考古学上の遺跡を発見する方法として、地上の場合には表面採集という方法が採用されています。それは地図を持参して、マッピングして歩くのです。そうすると、後世の耕作などで地下の文物が地表面に壊されて露出して来ます。それを採集して、記録し、地形の状況を讀んで遺跡として登録する方法が採用されています。しかしこの



原田遺跡出土の他地域系統の弥生土器
(写真提供：上高津貝塚ふるさと歴史の広場)

場合には地下深く埋没している遺跡は、発見することができません。要するに、土浦では縄文時代や古墳時代および奈良時代以降の集落が丘陵上に存在するのに対して、弥生時代はそうした立地を採用していないか、あるいは極端に人口が減少したかのどちらかと考えられます。

これら15遺跡を検討すると、すべてが集落遺跡です。特徴的な遺跡を挙げてみると、花室川流域の現在の烏山地区があります。ここは宅地造成が行われる前に、国士舘大学考古学研究室と茨城県教育委員会によって発掘調査が行われ、縄文時代から奈良時代にかけて300棟以上の住居跡が発見され、弥生時代後期の住居跡4棟が一つの単位として調査されています。

また、永国地区と土浦第三高等学校校庭に弥生時代住居跡が存在したといわれていますが、詳しくは記録がありません。さらに穴塚古墳群を昭和43年に発掘調査したところ、第1号墳と仮称した前方後円墳の下に弥生時代集落跡が確認されました。その時期は後期初頭で、その数は10棟におよび重複関係が見られることから、2時期が想定されました。しかし、墳丘下のため全面的な調査は実施されませんでした。さらに土浦第六中学校の造成の際にも、弥生時代

集落があったものと想定されます。私は昭和58年に旧郷土資料館の倉庫の中でこの土器を実見させて頂きました。特に市内で注目される弥生時代の遺跡は、今泉地区の原田遺跡では北地区で93棟、西地区で12棟の住居跡が発見されています。この集落の特徴は、各住居内から紡績用の紡錘車が前者では36棟、後者では1棟から発見されていることです。特に前者では1住居内から最大5個も出ており、約半数の17棟は複数を出しています。私は以前本紙で、土浦の古代布についてご紹介させて頂きました。律令時代の特産品である麻布は、その生産が弥生時代後期からこの地方で行われていたことを証明しています。

土浦の弥生時代は研究が大変遅れています。私たちが悉皆調査をした時点では、原田地区は荒地地で遺跡と確認することはできませんでした。その後、土浦北部工業団地造成に伴って発見され、新知見を得ることが出来ました。従来考古学の成果を整理すると、土浦の弥生文化の伝播には大きく三系統が知られています。それはこの地方の弥生土器の形態によって整理出来ます。すなわち、土浦第六中学校校庭から発見されている東海系の土器群、原田北遺跡から発見された北関東系と東北系土器

群です。こうした三系統の文化が土浦で融合していると私は考えています。紡績を土浦に伝えた文化は北関東を経て伝わり、次の時代を代表する前方後円墳は東海系すなわち上総・下総を経て伝播してきたと想定されます。

この時代の最も大きな疑問は水稻栽培の問題です。土浦の沖積地のどこかで弥生時代の水田跡を発見することが、私の長年の念願であります。必ず存在するはずであり、若い研究者の奮起を期待したい。今年はそのような夢を見ることにしました。



原田遺跡ほか市内出土の弥生時代紡錘車
(写真提供：上高津貝塚ふるさと歴史の広場)